

# 童謡先駆者たちの愛と情熱の物語を朝ドラに！

## 「童謡先駆者たちの愛と情熱の物語」を2018年のNHK連続テレビ小説に要望します！

2018年は、「童謡」という言葉が生まれて100周年になります。

「童謡100年プロジェクト」は、2018年4月～9月（もしくは前年10月～2018年3月）のNHK連続テレビ小説に、「童謡先駆者たちの愛と情熱の物語」を主題とした作品の放送をお願いする運動（署名活動）をしています。

ぜひとも本趣旨にご賛同いただき、放送の実現に向けて、全国の皆さまからご署名をいただきたいと願っています。

1918（大正7）年7月1日、鈴木三重吉により、児童雑誌『赤い鳥』が創刊されました。当初、掲載された童謡には、曲（旋律）は付いておらず、同年11月号に掲載された西條八十 作詞の『かなりあ』に、成田為三が曲を付け、翌年5月号に楽譜を掲載したのが最初です（この時、『かなりや』に改題）。

『赤い鳥』の後を追って、斎藤佐次郎の『金の船』など、多くの児童雑誌が発刊されました。最盛期には数十種に及んだといえます。中でも『赤い鳥』の北原白秋・西條八十・山田耕筰、『金の船』（後に『金の星』と改題）の野口雨情・本居長世らが多くの童謡を手がけ、童謡の黄金時代を築きました（北原白秋・野口雨情・西條八十は童謡三大詩人と呼ばれた）。



『赤い鳥』創刊号の表紙

1920（大正9）年、8歳の本居みどりは、父である本居長世 作曲の「十五夜お月」（後に「十五夜お月さん」と改題）の発表の場で、これを歌って喝采を浴び、一夜にして“わが国の童謡歌手第1号”と呼ばれるようになります（童謡のレコード吹き込みも第1号）。

本居みどり・貴美子・若葉の三姉妹は、父・長世と日本各地で公演を行い、喝采を浴びます。

1923（大正12）年、関東大震災により甚大な被害が発生すると、日系米国人を中心に米国から多くの援助物資が贈られてきました。その返礼として演奏旅行が企画され、長世と、みどり・貴美子姉妹らは、アメリカ各地（ハワイ、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ハリウッドなど）で公演を行います。



2018年は 童謡が生まれて100周年。あと100年 歌い継ぎましょう！

## 童謡100年®

doyo100.com

f 童謡100年プロジェクト

“童謡”という言葉は、鈴木三重吉が1918（大正7）年に創刊した児童雑誌『赤い鳥』から広まりました。ですから“童謡”は2018年で100周年を迎えます。100年もの間、歌い継がれてきた“童謡”を再評価し、そしてこの先100年間、歌い継いでいくことは、今を生きる私たちの使命であり、喜びでもあると思います。今こそ、“童謡”をオリジナルな日本文化として再評価し、世代間の懸け橋として、また、世界への発信文化として活用しましょう。

# 童謡先駆者たちの愛と情熱の物語を朝ドラに！

## ● 主な登場人物

※順不同 ※敬称略

鈴木 三重吉 (すずき みえきち) 児童雑誌『赤い鳥』を創刊 (夏目漱石の弟子)

斎藤 佐次郎 (さいとう さじろう) 児童雑誌『金の船』を創刊

野口 雨情 (のぐち うじょう) 作詞家：七つの子、十五夜お月さん、シャボン玉、赤い靴、青い眼の人形、船頭小唄

北原 白秋 (きたはら はくしゅう) 作詞家：揺籃のうた、からたちの花、この道、待ちぼうけ、ペチカ、アメフリ

西條 八十 (さいじょう やそ) 作詞家：かなりや、蘇州夜曲、青い山脈

本居 長世 (もとおり ながよ) 作曲家：七つの子、青い眼の人形、赤い靴、十五夜お月さん、めえめえ兎山羊

本居 みどり (もとおり みどり) 長世の長女 (日本初の童謡歌手)

本居 貴美子 (もとおり きみこ) 長世の次女 (童謡歌手) 超美少女

本居 若葉 (もとおり わかば) 長世の三女 (童謡歌手)

中山 晋平 (なかやましんぺい) 作曲家：証城寺の狸囃子、シャボン玉、あの町この町、てるてる坊主、船頭小唄

山田 耕筈 (やまだ こうさく) 作曲家：赤とんぼ、からたちの花、この道、ペチカ、待ちぼうけ (長世のライバル)

## ● その他 登場人物

弘田 龍太郎 (ひろた りゅうたろう) 作曲家：鯉のぼり、叱られて、金魚の昼寝、雀の学校、春よこい、靴が鳴る

岡野 貞一 (おかの ていいち) 作曲家：故郷、春が来た、春の小川、桃太郎、紅葉、朧月夜、日の丸の旗

高野 辰之 (たかの たつゆき) 国文学者 / 作詞家：故郷、春が来た、春の小川、紅葉、朧月夜、日の丸の旗

三木 露風 (みきろふう) 詩人 / 童謡作家 / 歌人 / 随筆家：赤とんぼ (雨情の学友)

相馬 御風 (そうま ぎよふう) 詩人 / 歌人 / 評論家：春よこい、カチューシャの唄、早稲田大学校歌 (雨情の学友)

小川 未明 (おがわ みめい) 小説家 / 児童文学作家：金の輪、赤い蠟燭と人魚 (雨情の学友)

中村 雨紅 (なかむら うこう) 詩人 / 童謡作家：夕焼小焼 (雨紅の「雨」の字は雨情からもらった)

瀧 廉太郎 (たきれんたろう) 音楽家 / 作曲家：花、荒城の月、箱根八里

坪内 逍遙 (つぼうち しょうよう) 小説家 / 評論家 / 劇作家：小説神髓、シェイクスピア全集の翻訳 (雨情の師)

三浦 環 (みうら たまき) オペラ歌手：蝶々夫人 (長世、耕筈の先輩)

若山 牧水 (わかやま ぼくすい) 歌人：童謡童話雑誌『金の船』の選者

宮城 道雄 (みやぎ みちお) 盲目の天才箏曲家：春の海、ワンワンニャオニャオ

吉田 晴風 (よしだ せいふう) 琴古流尺八家 (宮城道雄とともに新日本音楽運動を起こした)

竹久 夢二 (たけひさ ゆめじ) 画家 / 詩人：宵待草、春の宵

岡本 帰一 (おかもと きいち) 童画家：『金の船』、『コドモノクニ』の挿絵画家

清水 良雄 (しみず よしお) 洋画家 / 童画家：『赤い鳥』の挿絵画家

山本 鼎 (やまもと かなえ) 画家：『赤い鳥』自由画の選者 (白秋の妹と結婚)

森 鷗外 (もり おうがい) 作家：舞姫、阿部一族、高瀬舟 (本居長世とオペラ制作)

島崎 藤村 (しまざき とうそん) 詩人 / 小説家：破戒、夜明け前 (雨情とは遠い親戚)

金田一 春彦 (きんだいち はるひこ) 言語学者 / 国語学者：『十五夜お月さん ~ 本居長世 人と作品』 (長世の弟子)

芥川 龍之介 (あくたがわりゅうのすけ) 作家：蜘蛛の糸、杜子春などを『赤い鳥』で発表

草川 信 (くさかわ しん) 作曲家：揺籃のうた、どこかで春が、夕焼小焼

巽 聖歌 (たつみ せいか) 児童文学者 / 作詞家 / 歌人：たきび

成田 為三 (なりた ためぞう) 作曲家：かなりや、浜辺の歌、雨、りすりす子栗鼠、赤い鳥小鳥

与田 準一 (よだ じゅんいち) 童話作家 / 詩人 / 『赤い鳥』の編集 (作詞家・橋本淳の父)

新美 南吉 (にいみ なんきち) 童話作家：ごん狐を『赤い鳥』で発表

金子みすゞ (かねこ みすゞ) 童謡詩人：私と小鳥と鈴と、大漁、こだまでしょうか

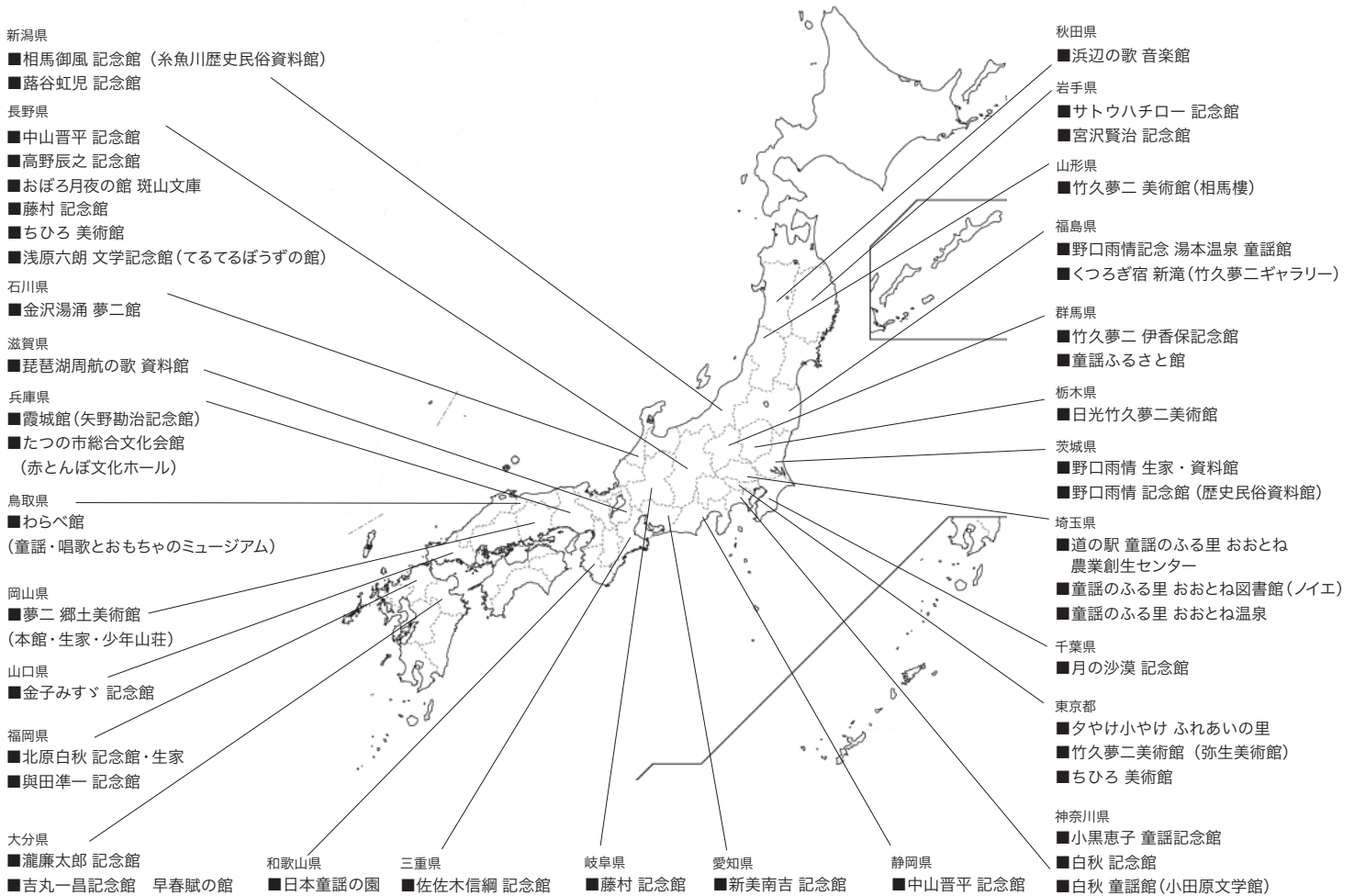
藤山 一郎 (ふじやま いちろう) 歌手 / 声楽家：丘を越えて、東京ラブソディ、青い山脈、長崎の鐘 (長世の弟子)

海沼 實 (かいぬま みのる) 童謡作曲家：あの子はたあれ、お猿のかごや、からすの赤ちゃん、みかんの花咲く丘

# 童謡先駆者たちの愛と情熱の物語を朝ドラに！



## 全国の童謡関連の資料館(生家)、記念館、関連施設



### ● 私たちも賛同しています！ (※順不同・敬称略)

- ・小田原市 加藤憲一 市長
- ・箱根町 山口昇士 町長
- ・野口雨情 生家資料館 (野口 不二子 館長)
- ・野口雨情 記念館 (茨城県 北茨城市)
- ・公益財団法人 鳥取童謡・おもちゃ館 (わらべ館) (鳥取県鳥取市)
- ・中山晋平 記念館 (長野県中野市)
- ・竹久夢二 美術館 (東京都文京区)
- ・雨情会
- ・童謡の里 めぐる保存会
- ・三代目 海沼 実 (音羽ゆりかご会会長、全日本音楽教室指導者連合会会長、日本歌手協会理事)
- ・たいら いさお (童謡歌手、NHK教育TV『おかあさんといっしょ』の三代目「うたのおにいさん」)
- ・大庭 照子 (歌手、NHK『みんなのうた』で「小さな木の実」を発表)
- ・竹村 忠孝 (北原白秋・山田耕筰の研究家、関東学院大学法学部 非常勤講師)
- ・渡辺 裕之 (俳優)

# 童謡先駆者たちの愛と情熱の物語を朝ドラに!

## 「童謡先駆者たちの愛と情熱の物語」を2018年のNHK連続テレビ小説に要望する署名 童謡100年プロジェクト

2018年は、「童謡」という言葉が生まれて100周年になります。私たちは、2018年のNHK連続テレビ小説に、「童謡先駆者たちの愛と情熱の物語」を主題とした作品の放送を要望します。

氏名	住所
1	都道府県
2	都道府県
3	都道府県
4	都道府県
5	都道府県
6	都道府県
7	都道府県
8	都道府県
9	都道府県
10	都道府県
11	都道府県
12	都道府県
13	都道府県
14	都道府県
15	都道府県
16	都道府県
17	都道府県
18	都道府県
19	都道府県
20	都道府県

※署名データは「童謡先駆者たちの愛と情熱の物語」朝ドラ化要望活動以外には使用しません。

署名が集まりましたらこちらに：〒154-0011 東京都世田谷区上馬 4-34-16 OAKS 101 有限会社 ディレクションズ 童謡100年 宛て



2018年は 童謡が生まれて100周年。あと100年 歌い継ぎましょう!

### 童謡100年®

doyo100.com  
f 童謡100年プロジェクト

“童謡”という言葉は、鈴木三重吉が1918（大正7）年に創刊した児童雑誌『赤い鳥』から広まりました。ですから“童謡”は2018年で100周年を迎えます。100年もの間、歌い継がれてきた“童謡”を再評価し、そしてこの先100年間、歌い継いでいくことは、今を生きる私たちの使命であり、喜びでもあると思います。今こそ、“童謡”をオリジナルな日本文化として再評価し、世代間の懸け橋として、また、世界への発信文化として活用しましょう。